
Champion RED Comics
RED
吉川英朗
Yoshikawa Hideaki
カガクなヤツら
6

ISBN978-4-253-23588-4
C9979 ¥552E (0)

9784253235884

1929979005528

雑誌 44944−97

秋田書店

定価：本体552円十税





Champion RED Comics
RED
吉川英朗
Yoshikawa Hideaki
カガクなヤツら
6

-NA-YATSU-RA KAGAKU-NA-YATSU-RA

はじめに

はじめに＝ふたりのカガク者、緋月綾奈と久世愛莉。彼女たちのカガク力（りょく）でいつもセクシートラブルが巻き起こる! ライバルの三鼎一味も加わり、さらに大混乱に!?

初出／チャンピオンREDいちごvol.37～vol.41


vol.28／アイツのヒミツ
かぽーん
調べてみるものね
近くにこんな温泉があったなんて
やはり大きな風呂は癒されますな
ぴくん
紬もここ好き──


今度はハルキと一緒に来たい――
いけませぬ紬殿
ヤツは紬殿のクチビルを奪ったキチク
結唯殿もなにか言ってやって下され
わ…私!?
そ…そうねあいつ大きな胸ばかり見てるオッパイ星人だし…
お…大きければいいってモンじゃ…
ポリ
ポリ
おおよく見てますな結唯殿
ズっ!?
て…敵の関係者だからね
んぃ――


ハルキ大きいムネが好き？
ぱしゃ
紬のムネは…
んぃ？
…んぃ？


お待ちかねだぜ
野郎共ッ！
夏休みッ！
漢たちのワンダランッ
開幕ウッ！
うおぉおおお
まあ各々イチオシの
エチーモン持ちよって
盛り上がるっつー
だけなんだがよ
だが これぞまさに
男子学生の青春ッ！
そうだろうか


とにかく
オヤジもオフクロも
丁度出張が重なって
我が家は貸し切り状態
存分に堪能
するがいいぜ
応ッ！
この家を
たぎる青春汁で
漬け込んでくれるわ
イヤアアア
マイハウスがぁっ!!
ではボクから
イかせて
もらおうかな
魅惑の
Gカップ
プルルン祭り
魅惑のGカップ
プルルン祭
おおっ
1組の田中ッ!!


1組のオパイマイスターと名高いボクの選んだ逸品を見よ！
開幕からトバしてきやがる！
うおおおGカップ様の降臨じゃあああっ！
オパイイ～ン
アフゥゥ～ン
Gカップってこんなもんだっけ？
あれ？
あれ…？
なんかモノ足りねーよなー
キ…キミタチィィ～～～～～ッ!!?


くっ…
そ…そりゃそうだよね
同じクラスにあんな
ミルクタンクがいれば…！
ずううん
透子サンも
よく遊びに来るから
ダブルオッパイだな
しかもことあるごとに
目の前で
エチー姿に
あわよくば
どさくさに紛れて
モミモミ
それは人として
どうなん
ば…っ
爆発して
しまええっ!!
クラス替えッ！
クラス替え
早よォオッ！


フッ…早くも
仲間割れかネ
オパイ星人共
キッ
キサマらは…
無乳好!!
ナ
ス
その名前は
よせ
ならば次は
我々のオススメの
時間のようだネ
ざわっ
あれは
4時間の
長編モノ…
ヤツらめ
この祭りを
独占する
つもりか!!
会場は我らがオパイ星人
遥希の家だ
そのような暴挙は許さん



知らないのかネ その遥希クンは最近 貧乳もイケるクチになっているということを
な…なにィィッ!?
ほ…本当か 遥希!?
ん～まぁ 固いと思いきや あの妙な柔らかさは…
な…なんという ことだああっ!!
まぁ オパイは 皆尊い…
ナニをする キサマら!
ハイホー
ハイホー
裏切り者は オウチ帰れ――!
ここが俺の オウチやっちゅうねん!
んぃ?
ハルキ 小さなムネ 好き?
ん?


うおっ!?
紬…なんでここに…
んぃ!!
玄関開いてたの
ズ
開いてても勝手に入っちゃいけません
ハルキは小さいムネ好き?
あ…いやたしかに悪くねーと思うけどよ
やはり大きなオパイの魅力には敵いませんなァ…
おおっ!!


それでこそ…
それでこそ
俺たちの還希だぜ
おかえり…
信じてたぜ…
バカ野郎…
泣くんじゃねぇよ
がっちり
…？
じゃあ…
変なムネは好き？
…は？
変なオパイ？
ま…まさかッ


オパイがブドウみたく
沢山あったり
チクビがカルパスみたい
だったり…
そんな
グロオパイを
見たことが
あるが…
そ…そんな
人外魔境が!?
さすがにそれは
ヒくわ――


紬…？
いいから早く次観よーぜ
お前らさすがだわ
雄把井公園
タッ


ム…
思わず逃げちゃった
でも…
ヒクわー
ハルキにバレちゃだめ…
紬!!



あ…
おいっ!?
なんなんだ一体…
駒場遥希!!?
結唯!
彩刃も!?


お前たちも
紬を!?
ええ…急に
飛び出していって…
心当たりは？
いやっ
私は見ましたぞ
紬殿は先程確かに
この男を見て
逃げ出しました
オノレ 今度は
紬殿に
ナニをした!?
どわああ
出会い頭にコレかよぉぉっ!!
とにかくっ
本人から話を
聞くしかないわ
手分けして
追いつめるわよ


あぶない!
バサー
て…手強いわね…
色々なモンになれるから的が絞れねーな…


そうだ
あんなに変身を
繰り返しているなら
ぶらーーん
いかなご
136円
ごはん——
入れ食い!



ガバ
んぃ!?
ハルキ…ヒキョウ…
俺もこんな
うまくいくとは
思わなかったわ
ん?


はな…して…
っていうか
本当
どーしたんだよ
い…今放したら
召されるっ
ちゅーねん
お
お
ゴ
ゴ
お
ぅ
…ヘンなムネ
紬のムネ…
結唯とも…
彩刃ともちがう
ヘンなムネ…
ハルキに…
嫌われちゃう…


はぁ!?
前に一緒に温泉入ったことあるけど特に…
ハッ
いや…あんときは喧嘩の相手ばっかしてて紬のオパイは見てねー…
ブドウオパイ…
カルパス…
ハルキ…やっぱり…
ぐーる
ぐーる
ぐぅ〜



おなか
すいた――
こ…こんなとこで
変身解くな…
うわっ…
ああああ
あ〜〜〜っ
!!?


ぷしゅううう
いてて… なんとか生きてっか…
がばっ
紬は… ぶっ!?
なんだこれ 紬の服!?


んん…
陥没(かんぼつ)
TKB(チクビ)


んぃ…？
ハッ
じーっ…
ブスッ
んぃっ!!
眼が!?
見た…？
い…今はナニも
見えねーけどな
えーと
ヘンなオパイって
その陥没チクビ…？
…ッ！


ポン
安心しろ
俺は確かに
オパイ星人だが
それだけで人を判断
したりしねーよ
なぜなら
オパイは皆等しく
尊いのだから…


あぁ でも
ブドウオパイや
カルパス乳首は
ちょっとキツい
なァ…
?
よく
分からない
けどハルキ
紬のムネ
イヤじゃない?
おう
むしろテンション
あがったぜ
あと正直安心した
フィクションの産物かと
思ってたからな——
ちょっと触って
みてーとか
思ったり——
なんてな
あははっ
…!


んいっ!!
!?
あの…紬…?
紬のムネはヘンなムネ
でもハルキはイヤじゃないって言ってくれた…
ハルキが触りたいなら触ってもいい…
マジでか


さ…触りてェェッ!!
しかし同時に紬の無垢なトコにつけこんでるっぽい罪悪感も…
お…俺はどうすれば…!?
ハルキ…
やっぱり…紬のムネ…イヤ？
喜んで愛でさせて頂きマスッ!!


んっ…
自分のオパイに
自信の持てない
紬のためにも…
全身全霊をもって
紬のオパイを
愛でるべきっ!!
ですよね
オパイ神様
その通りさ
BOY!
オパイ神
今遥希が作った
ありがとう
神様!!
むっ!?
こんなになっても
出てこないとは…
常時ビンビンで
お馴染みの綾奈とは
正反対だな…
は…
は…



ならば直接
引っぱり出すッ!!
ッ!?
~ッ
そして
引っぱり
出したのを
気にッ!!
はっ




随分堪能しているな
おかげさまでな…
は…
!!!
は…
やはりキサマのせいかこのキチクめ——ッ!!
違くないけど違うんだ——ッ!!


ああ
ヒドい目に
あった
今回は殆ど
自業自得でしょ
バカ
しかしオパイのことで
深刻になりすぎだぜ
オパイはみんな
尊いのに
なぁ？
ちょっ
私に
振らないでよ
……
三鼎は…



今みたいに
他のカガク者の技術を
奪いはじめる
少し前から…
他のカガク者たちから
疎まれ出していたわ
…何やったんだよ
……
さぁ？
…でも…
紬が生まれたのは
丁度その頃


生まれたときから
味方は家族だけだったわけか…
そうよ…
でも…
あなたは紬を助けた…
紬が出会った家族以外のはじめての味方
だから紬のことひとつであんなに深刻になるくらいに…
嫌われたくないのね


…そうか
そうよ
ゴ
だからといって今度紬に同じようなことしたら絶対許さないから
ゴ
ゴ
ホンッマスンマセンッした
……
とっところでっ
女の子の胸はみんな尊いのよね!?


ということは…
わ…
私の胸も結構たまらないってこと…よね!?
いややっぱたまらねーのはデカイオパイだな
なななッ
き…期待させるんじゃないわよ——っ!!
期待ってなに!?
ちなみに祭りはとある参加者が持ち込んだスカト○なビデオで死々累々となったとか
みんなアカンのんっ
フツーはアカンと思います

vol.29／ビビるヤツら




盆踊りきもだめし大会
まさか肝試しの手伝いをさせられることになろうとは
肝試し大会はこの町の盆祭りの目玉イベント！
もっと盛り上げてーと前々から思ってたんだよ
んで！
愛莉たちのカガク力があればスゲーコト出来んじゃねーかと！
相変わらず妙な行動力ですね…


まあ そういう
ことなら…
うんっ
がんばろっ！
……
私はゴメンです
肝試しなんて
バカバカしい
あ…
ああ もしかして
愛莉って
幽霊とか
ダメなクチ？
ビクッ
AORITA
まァ 怖ェーなら
しゃーねーよな――
だ…誰も
怖いとは…
いいでしょう
そこまで言うなら
参加してあげます
扱いこなしてんなぁ…


ブフフ…
怖いわダーリン
オーケーさハニー
オレが守って…
サブイボたつ
イチャつき方してる
バカップルはいねーか…
ナマクビイイ〜〜〜ッ!!!
さらばっ…!!
ダーリン
わ——…


盛り上がってるねー
こんな夜の雑木林で生首や綾奈の生物たち見たらビビるわな
ちなみに綾奈は幽霊とかは…
うんっ いたらどんなコか会ってみたいよね
ああ いつものホンワカだ
ふ…フンッ 全くもって下らない！


ゴ
ゴ
ゴ
ボソ
ボソ
スポッ
ポ
ああっ
か…かえしてくださいっ!!
愛莉！お前本当こういうのダメ…
ち…違います！
幽霊なんて非科学的なもの興味すらありません
ほう
大体…
くるっ


全然ダメじゃねーか！
ち…違います
信じてないからこそ
もし見えたら
どうしようかと…
それフツーに
ビビってるって
言わねーか!?
まぁまぁ
それなら私たちが
その分がんばれば
いいだけだよ
綾奈さん…
それも何かの
幽霊のコスプレ
ですか。
うんっ
雪女だって
真夏に
なぜ
次のグループだ


じゃ…じゃあ私
おどろかせてくるね
待ていっ！
おいおい
ずいぶんエロい乳した
幽霊だなァ？
おっぱい…っ
ちくびいいっ♡
あっ♡ あぁんっ♡
あっ♡
あぁあっ♡
ああああああぐっ
こんな
ムチムチの足も
ついてやがるぜ
綾奈が行ったら
どうなるか
目に見えてるだろ
少しは自分を
理解して
行動なさい
え？
え？
お〜ばけだぞ〜


そんなぁ…私も役に立ちたいのに…
あ…
女のコ相手なら大丈夫だよね…?
う…うらめしやー…!
雪女なのに!?
がさっ
え…えっと…
う…うらめしや…!



ふぁあっ!?
おやおや ずいぶんエロイ乳した お化けだこと
あ♡や、ああっ
そんなっ…んああぁあっ♡ おっぱいっ…っ ねちっこくぁぁっ♡
こんなムチムチの 足もついてるなんて…


りやめぇぇっ♡、おほけ…なのにっ…っ♡
あっ♡あぁ♡すき…かって…
されてぇぇっ♡
ああああああ
あああ〜〜〜っ♡♡
ええい だから
言ったというに!
食〜べちゃうど〜
アヒ・イイイ〜
こりゃ大人しく
裏方やってもらった
方が…
笠間から!?


お化けのレベルが高すぎてブッ倒れるヤツ多数
ちょっと手ェ貸してくれ!
まさかの大惨事
まぁ「町の肝試し」くらいのノリで油断してたの多そうだしな…
と…とにかく急ご!
!?
か…髪が…
あっ…




がくっ
…


どき
どき
どき
三鼎(みつかなえ)・・・!?


ぜ…
ぜっひゃ…
絶対
離さない
でよ！
はは
結唯殿は
怖がりですなぁ
う…うるさいっ
あんたたちは
なんで平気なのよ
センサーが
全てゆえ
おばけって
おいしい？
さあキビキビ
歩かれませい
紬殿のために
ゴール賞のオヤツ
（1人につき1つ）を
手にするために！
…
家計が助かるって
言葉につられた私が
バカだったわ
丁度
いい…
日頃の鬱憤＆
恐怖を紛らわす
ためにも…
万能
バックパック!!


うおおぉぉ!
スピーカーモード!
!?
声… 声があぁっ
はは
定番ですなぁ
立体映像モード!
アオオ
怖がったのはひとりだけですか
ちっ
では次ッ


いやああ
あああ
おー
本格的
ですなあ
来ないでぇ
ええっ!!!
ブワッ
ん？
三鼎め
今ナニを…
…って…
ひぃぃぃぃっ!?
わっさ
わっさ



な…なんだか
分かりませんが
来ないで下さい！
ん？
雅
あ
!?
ぽすっ
どすっ
い…彩刃ぁ…


むっ
久世愛莉(くぜアイリ)！
ゴッ
きゃあああ〜っ!!
バッ


ポカ
あっ いたっ
ポカ
いたたっ
わっ!?
こ…混乱して 操作が…
あ…あれ リボン…
前が…
う…うう… ドロまみれ…
ま… 前が…
ゴツン



愛莉がついてきてねーのに気付いて戻ってきたら…
どういう状況？
こっちもナニがなにやら
まぁ苦手なモンは仕方ないです


vol.30／
集まるヤツら
夏休みも
もう
おしまいか――
宿題
どうしよう
古典


泣きゴト言っても
はじまんねー
家じゃ
集中できねーし
図書館かサ店…
お…
おおっ…
どこも
満席かよ
しゃーねー
ゲーセンで少し
時間潰して…


やって
しまった
つい熱が入っちまった…
い…今からマッハでやっつけねーと
ひ…ひとりで頑張れる体力も気力も残ってね――
もう素直に怒られよーか…
あら？


駒場遥希じゃない
どうしたのよ また辛気臭い顔して
実はカクカクシカジカ
はぁ? 計画性もなにもあったもんじゃないわね
……!
な…ならいい考えがあるわ


ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
確かに宿題を誰かの家でってのは定番だけどよ――
結唯殿…
この男に構うヒマがあるなら少しはカガク技術を奪う作戦を…
え…えぇと…ヤツらの関係者っていうのを利用して…
いつもそんなこと言っておられるが何も収穫が…
ガ
シャラップ!!
暴君!!
ポ



分かってるわよ
そんなのただの言いわけだって…
でも…仕方ないじゃない
?
こいつにはパパと同じ…
大きくてあたたかい手が…
…どした?
な…なんでもない!
とにかく始めるわよ
学校ってどんなこと教えてんの?


学校行ってねーのかよそんなので…
これのどこに手こずる要素あるわけ？
マッハで終わった！
そういや愛莉も学祭のとき…
カガク者は頭のツクリが違うのか…
カガク者なら3秒で暗記できます
でもこれなら力に…
ん？
もしもし遥希さん？
愛莉!?


そろそろ手付かずの夏休みの宿題に絶望されている頃かと
あぁっ バレバレ!?
ご自宅ですか?
つきっきりでお手伝いいたしますよ
え
えーと…
なんです 歯切れの悪い…
あっ!!
ツー ツー
…どうしたの?
いや… このパターンは…


ドン
うわっ!?
これは一体
どういうことです


様子がおかしいのでサーチしてみれば…
遥希さんを連れ込みたぶらかす気ですか
え…っ
ち…違…っ
は…遥希が土下座して頼むから…
うおっ捏造土下座!?
くっ
はぐらかすつもりですか…
よろしいっ!
ならば勝負ですっ!!


ド
ド
ド
ド
一番遥希さんの役に立った人が明日遥希さんとデートの権利です！
なっ!?
わ…私は別に…
なんでこんな展開に
いや待てよ
これはチャンスなんじゃねーの？


カガク技術を巡り対立している愛莉たちと三鼎…
それが俺の宿題という共通の目的をもって同じ空間にいる…
うまくやれば仲良くなって戦いもやめさせられる？
よしっ！
頼むぜみんな！
うんっ
そ…そこまで言うなら


その意気ですよ遥希さん！
おおっ！
うめぇーっ！
マチガイねーー！
頭の回転に糖分が必要ですからね
わ…私も特製のおはぎを…


おやおや
また所帯染みた
ものを
オ…オカンって
言いたいの!?
もしゃ
もしゃ
い…いやいや
このおはぎも
ウメーぞ!
マジで!
んぃ
絶品絶品
はうっ!?
あ…甘いモノ
食べすぎて
眠気が…
むにゃ
むにゃ
遥希さあぁん!!
あなた よくも
遥希さんの
邪魔を!
先に甘いもの
出したの
そっち
でしょーっ!?
紬も一緒に
寝る――
いけません
紬殿


だ…だめだよ ハルくん…っ！
オパッ!?
私も一緒に がんばるから ハルくんも…
ね？
お… おお…
たぷん..
イッパツで 目が覚めた！
ビバオッパイ－！
遥希さん あなたって人は！


じょいやー♪
ふぁっ?
ほらほら
ハル少年——
宿題終わらせたら
もっとスゴイコト
したげる…かもぉ?
オパッ!?
マジゥ!?
フオオオ
ヤル気MAX!
あ♡
あ♡
にはは——
こりゃデート権は
決まりかな——?
本当にもう単純な!


ゴゴゴゴ
マズイ…
目的のためにも空気をナゴませねーと
その…アレだ…
オパイは皆尊い…ぜ？
とってつけたように
尊いと好みは別なんでしょ知ってるわよ私！
くっ…綾奈の胸に少しでも対抗するには…
彩刃は！
冗談ではありませぬ



我々の目的を
お忘れか
このような
乱痴気騒ぎ…
わいわい
──ッ！
成程…ッ



ドッ
奴等の意識が
駒場遥希に
集中している今こそ
カガク技術を
奪う好機！
借家が！


ワナだったってわけ…!?
流石 結唯殿
駒場遥希を利用とはこういうことだったのですな！
わすれていましたこのコたちは…
「奪う者」！
誤解が加速していく！
待ちなさい！
私はそんなつもりじゃ…



パパ――……
結唯殿？
…そうね


！
しまっ…っ！
あ…ああっ…！
あうっ
ケーキが…
んぃっ


確かに
私たちの目的は
そうだったたね…
そう…
どんなに大きく…
あたたかい手を
していても…
あいつは…
パパじゃない…
だから
私は…ッ!
勝敗は
決したわ



大人しくカガク技術を差し出すなら…
結唯殿！緋月透子は!?
え!?
あくっ!?



ナメた真似
してくれたわね――
しまった…
既に
透明化…
あ…っ
!?
か…
からだが…っ!?
透子サン特製
感覚鋭敏薬く
主にソッチ方向特化
そわ…
あんっ
少しオシオキして
あげないとね――
ぁあっ♡
ちょ…やめ…っ
ひぁあうっ♡


あっ…ああっ♡
こんな…っ♡
こんな…
こと…でぇっ♡
あうあああああ～っ♡
にゃっ!?


よそ見は
すべきで
ないな
三鼎は
ひとりでは
ないのだから
前々から貴様には
うんざりしていた
そんなに辱めが
好きなら
己の身で
味わうといい
ことあるごとに
辱めを与えようとする
外道め
うあにゃっ!?
ちょ…
ちょっと
待…っ



ふぁあぁくっ♡
んぃ…ケーキ…
クリーム…おいしい…
!?
あ…っ♡ あぁっ
ら…め…ぇえっ♡
お…っぱい…ぺろぺろ…はぁっ♡
あっ…あぁぁ…っ♡
ち…くび…は…
ゆ…ゆるし…


ふゃぁあぁっ♡
ちくび…っ♡ちくびぃいっ♡
あぁあああ
あぁあぁくっ♡
んぃ？
そうだった
綾奈のおっぱいから
ミルク出るんだった
じゃあ…
ひぁぁんっ♡


んい…ミルク……おいしい……
にゃふぁぁぁっ♡ りやめえぇっ はげし…すぎ…っ
ぇあぁ
ふぁああああぁあぁあ〜っっ♡♡



つ…紬殿
またそのような…
くぅっ!?
あなたも
よそ見をすべきでは
ありませんね
もう抜け出したか
やはりあなどれんな
う…
仲良くさせる
つもりだったのに
これじゃ真逆だ
と…
止めねーと!
!!


ならば完膚なきまでに叩き潰すッ！
返り打ちです！久世愛莉戦闘モード！
AKIAKIAKIAK


やめろッ!!


では宿題を集めるぞ——


ボーッ
ゴォ
ぶすぶす
4ギクッフ問題集
地理
消し炭とコマ切れでよければ
なぜそんな惨劇に
三鼎め…次はこうはいきませんよ
おのれ あの男の邪魔さえなければ…
雨──
パパ…
なんだか雲行きが怪しくなった感じが


三鼎が!?
はい
カガク者への襲撃を
再開しました
私たちを狙うのは
難度が高いと考え
他のカガク者たちに
狙いを変えたようです
とにかく
放っては
おけません!
vol.31／
三鼎のヤツらⅢ


たやすいですな
紬カガク技術の回収 急いで
んぃ！
私の調べでは…
あとはここのカガク技術さえ手に入れば…


ザッ
結唯!
止めても無駄よ 思い出したの 私たちの目的を
パパのために…
もっと… 力がいるの
――ッ!? それはどういう…
!!



来ないで！
あなたはパパじゃない…
パパと同じ大きな手をしていても…
私を…惑わさないで…
結唯…？
ッ!?



なんなのだ貴様は…
私たちのことなど何も知らぬ分際で…
紬殿を…
結唯殿を…
私たちのなかに…
入って…
くるな…!
彩刃…



…じゃあ
教えてくれよ
お前たちは
何が目的なんだ
ここしばらく
ツルんでみて
俺にはお前らが元々
こういうことをする
奴等だとは思えない
オヤジさんの
ためって
一体…
このコたちの
目的は…
しゅる
「父親の
サルベージ」
透予サン…！
そうでしょ
三鼎？


ど…どこまで…
結構調べたわよー
責められっぱなしは趣味じゃないのよねー
結唯殿…
……………
パパは…
私を…家族を愛していた
自分の全てを
私や…家族のために使ってくれたわ


珍しいですね
カガク者の大半は
自身の研究を
最優先…
そうね
カガク者としては
優秀とは
いえなかったかも
自分の時間を
全部使っちゃって
カガク者としての
実力も名声も
失っちゃったし…
も…もちろん私は
遥希さん
最優先ですが…
それでもパパは
家族を選んだ
私も
そんなパパが
大好きで
側にいるだけで
幸せだった



けれど…
三鼎の母親はそんな夫に見切りをつけた
あんなやつ…母親だなんて認めないわ!
あいつのせいで…
パパは――


このデータって別のカガク者の…
こっちもまた別の…
どういう…こと？
あははは
すごいだろうパパは他のカガク者と同じくらいスゴイものを作れるんだ
ママもきっとボクを見直して戻ってきてくれるよね


パパ…他の
カガク者たちが……
パパが研究データに
侵入した形跡が
あったって…
まさか…
盗…
悲しそうな
紬…
やっぱり
ママがいなくて
寂しいんだね…
でも もうすぐ
家族も増えるし
大丈夫だよ
彩刃に…
紬だ


違う
パパは生物も
機械も専門外…
じゃあ…
やっぱりパパは…!?
ガバッ
もうやめて
パパ!
あの女は
他のカガク者と
一緒になったの!
だから…!


マ…ママは…もう…？
…
て…でも私が
あの女の分も
一緒に――
だめだよ…
ボクは昔のように
家族みんなで…
昔の
ように…
昔…
そう
戻るんだ
幸せたった
あの日に


時間跳躍!?
バカな…どのカガク者も成し得ていないそれを…
盗んだ技術でなどと…
…そうよ
だからパパはいなくなったの
時空の狭間に飲み込まれて…


…親父さんは生きてるのか!?
「死んだ」なんて一言も言ってないわ
──私の…
三鼎の目的は…
パパ…



大好き
だったのに…
私は…
パパに…
なにも…
ゆ…結唯殿が
無事だっただけでも
何よりです
んぃっ
元気出す！
彩刃…
紬…
許されない
手段で
生み出された
存在なのかも
しれない…


でも…パパが私のために生み出してくれた…
私の…
三鼎の…
味方
2人とも力を貸して…
まだ出来ることはあるわ…
パパを次元の狭間から
サルベージする


そのためには…
そのためには力が必要なの…
どんなカガク者よりも
もっと…
もっと…
だからといって奪った不完全な技術では…
父親と同じ結末に…
うるさいっ！


だったら
どうしろって
いうのよ！
私だけの力じゃ
どうしようも
ないもの
こうするしか…
こうするしか…
ないじゃない…


結唯――
カガク技術回収できた――
…よしビンゴ!
これだけ揃えばパパのサルベージを実行できるはず…
ま…待ちなさ…
…遥希さん…?


バッ
…悪い
愛莉（アイリ）…


あいつらが
間違ってるのは
分かってる…
でも…俺は
大事な誰かを
取り戻したいっていう
結唯の気持ちが…
なら
なおさら…
あのコたちを
止めるべきでした
――えっ？
…みんな…？
ガタ
ガタ



サルベージ開始！
んぃっ！
なんだかスゴい！
よし…
ここまでは
順調に…
あっ！
やっぱり…ダメなの？
パパには…
もう…


彩刃!?
システムの不足分は
人造人間の私が媒介となって…
く…処理が追いつかぬか…
ならば…


バ…バカ
彩刃…
右眼は…
リミッターは
解除するなって…
不完全な技術で
作られた
あなたの体は…
負荷に…
耐えられ
ない…ッ


結唯殿…
私は結唯殿たちのために作られました
結唯殿のためなら
たとえ今ここで砕け散っても本望！
んぃ…彩刃…がんばる…
おお紬殿これは百人力ですな！
2人とも…
結唯…


バッ
パパの声…
いける… サルベージ できるわ!
…結唯殿は…
父上殿と再会されたら何をされたいですか?
え?
そうね… ありすぎて 答えられないけど…
でも… やっぱり



あたまを…
なでて…
ほしいかな…
──時空の狭間とは
時間と空間を
超越したトコロと
考えます


そこでは思考や記憶といった「情報」はまだしも
三次元の存在である「肉体」がどういう扱いになるのかは見当もつきません
時間跳躍の技術が不可能に近いといわれているのはこれが大きな一因で…
ちょ…
つまりどういう…
残念ですが…


恐らく
三鼎の父親は
人の形を
成していません


あの日から
はいパパ あーんして？
おいしい？
ほんと？
うれしいよ パパ…
結唯はコワレてしまった
vol.32／姉妹なヤツら


記憶などの
〃情報〃は正常に
回収できたらしい
だが肉体が
こんなことに
なるとは…
ハルキ…


見て…られねぇよ…
こんな終わり方…あんまりだろ…!
誰か…
誰か結唯をなんとかして…
ふぁっあぁっ♡
ああああ
あぁくっ♡
!?


ほらほら そんなトビっ放しじゃ もたない…わよ――
ふぃあぁあぁあぁ～っっ♡♡
全く明るいうちから よくやります
ズッ
やっほ―― ハル少年も 遊んでく――
ここは 相変わらずだな オイ



おわっ!?
うしろっ!?
シュンッ
あ…綾奈が2人…って消えた!?
三鼎が時空の狭間に干渉した影響でしょう
過去の出来事が幻影のような形で現れているようです
ヤラれてるのばっか!!
そんでそれ眺めてたらムラリときちゃってさ——
鬼か実姉&ケダモノ共


ま…まさかこんな
オモシロ現象が
発生していようとは…
オモシロじゃ
済みませんよ
おクチでトレーニング
下手したら
どんな恥ずかしい
過去が
現れるやら
んっ♡
んっ♡
この現象は
すぐおさまると
思うけど…
それは確かに
透子サンも
要注意――
言ってるそばから
うしろおおォ――ッ!
綾奈――



装置のあの部分取り外してくれって
うん 父さんが
大至急
ほら…実験成功させたいんでしょ…?
やめろっ!!



ジュ
に…
にははー
なんだったん
だろーね
アレ
…透子サン


前に…綾奈が犬と
同化したのは
透子サンが原因だって…
まさか…
今のが…
え…
お…
お姉ちゃ…？
いや参った
ゴマかしきそーに
ない空気ね――
あ…
だきっ


透子サン
子供の頃ね——
綾奈のこと
好きじゃなかった
トキあるのよ——
え…？
才能が
あるから
綾奈は生物に
関しちゃ
天才的なカガク者
一方 透子サンは
失敗もよくする
凡カガク者だからさー
そういや
ちょくちょく
失敗作が…


ほめられるのは綾奈ばっかり
悔しくてさ――
綾奈の評判落とせないかっていつも考えてた
思いついたのが綾奈をそそのかして大きな実験を大失敗させる…
そうかそれが…!
バカな話よね――
そう…
肉体再構成による
リセット蘇生実験


リゼットの死を
悲しむ綾奈のために
父さんが行った
実験…
大規模な
実験だったし
丁度いいと
思ってさ
…ちょっと
トラブるくらいで
よかったのよ…
でも 綾奈が
装置の中に入るとき
誤ってロックが
かかっちゃって…
父さんはそのまま
綾奈に気付かず
実験を開始…




まぁ正直 最初は
罪悪感とか
なかったけどね――
生きてる
ワケだし
いいじゃん的な
え…
ええっ!?
でも…
どうしたのよ
ボロボロじゃない
う…うぅ…


学校の…みんなが…
耳も…しっぽも…
気持ち悪いって…
ほう…
カガク者として興味がありますな
あれが犬と同化したという…
何とかしてサンプルに…


透子サンは
決めた
綾奈の一番の
味方になろうって
透子サンが
綾奈から奪った……
本来 綾奈が
受けるべきだった
他者からの愛情…
それを透子サンが
与えてあげることが
救いになれば…って
透明人間に
なったのも
本当は…
綾奈を狙う
悪意から
守るため…


結局…透子サンじゃ
綾奈を救い
きれなかったけどね
ハル少年には
本当…感謝してる
ありがとうね…
あぁも——
黙っててゴメンね
綾奈———!
わっ


最初は義務感から
でもどんどん 本当に綾奈のこと好きになっていって…
本当のこと知られて…
カタ…
嫌われるの…怖くて…


嫌いになんてならないよ
今はこの体大好きだし…
お姉ちゃんはいつも私の側に立ってくれていること
ちゃんと…分かってるから…
私も…大好きだよ
お姉ちゃん


綾奈…
自ら乳に顔をうずめさせるとは…
誘っているのかなぁぁくっ？
えっ…っ 違…っ
ひぁふぁあっ♡
あっれ いい空気どっか行った
こ…この流れでそう行きますかフツー
て…照れ隠しとか？
いえ あれは本気揉みです
ところで遥希さんは何の用だったのですか？
随分切羽詰まったご様子でしたが
え？
あ…あぁ そうだった


結唯のことなんだが…
ふぁ…あ…
は…
ハル…くん…?
これだ…



バッ
ラッ
お…お…
パパ…!


結唯・・・
パパ・・・
パパ・・・！
すまなかった・・・
ボクは側にいてくれた
君のことこそ
大切にすべきだった・・・
丸見え
うん・・・
うん・・・っ！
件の
肉体再構成装置で
元の人の体に・・・か
考えたな ハル少年♪


駒場遥希
まさか貴様に救われるとは
結唯殿と紬殿を惑わせる貴様を憎悪していたが…
少し…認識を改めるべきなのかもな
へっ
そりゃどーも
それにしても…
撫でて！撫でて！


なでり
なでり
やたら頭撫でろって言うと思えば…
本当好きなのな
?


なんで…？
パパの手より…
遥希の…
手の方が…
ああ
そっか…
私…
いつの間にか…
遥希
そのものに…



まぁ敵ながら後味悪い終わりをしないで何よりです
目的を果たした以上遥希さんに手出しもしないでしょうし
むっ
ど…どうかしらね遥希には恩ができちゃったし紬も気に入ってるし…
特別に大切(カゾク)な人にしてあげても…
んぃ?
なんですってぇええ~っ!!?
ちょっと!ちゃんと引き際を…!


もう…寄んじゃ…
ねぇよ…!
……
ちなみに…
結唯の心を奪った…
結唯をボクから奪うつもりかぁあぁ〜っ…
あぁっパパがまたダーク化!?
思ったよりパパさん厄介な人でした
ヴゥン
ズゥ



愛莉――
たまの休日 ワシと遊…
ダメ
です
今から 遥希さんと 出かける 予定です
うお～ン 今日もオオ～!?
vol.33
カガクなヤツらV



あの遥希とかいう小僧が現れてからめっきりかまってくれなくなったのう
こんな小僧のどこがいいというのじゃ
先日から調べておるがさっぱり…
BirthDay : 8/5
Height : 172
Weight : 59
Blood Tybe : O
——コヤツは…



今日こそ私を選んでいただきますよ
ちょっと！私たちを忘れないでよ
ほら 紬も！
あの…
えっと…
んぃ
おなかすいた
会話成立してない！
えーと やっぱ俺は みんなで仲良く…
あ…
ミルク――
ええい
それはもう聞き飽きました！


そこまでじゃ




フム…
さすがじゃな…
今の攻撃…
明らかに
遥希さんを…
何のつもりです
Dr.ワタリー!!
忠告じゃ…


駒場遥希
これ以上愛莉に…
いや…
カガク者に近付くでない
!?
ま…まさか私に相手してもらえないからと遥希さんを直接…
その気持ちもないでもないのう
認めやがった
じゃが…よいか…


科学技術の進歩に特化したワシらカガクの一族
じゃがそれにより一般人とズレが生じ易くどうしても異端とされがちじゃ
それでも近付いてくる輩は大きく2通り
ただの「善い者」と
カガク技術を狙う「下衆」
カガク技術の強大な力に魅了される輩はごまんとおる
つまり金になるからの
そんな…


ハルくんは
そんな人じゃ…
そうです
土下座して
謝りなさい
いや…
なんかそれ
アカン気が
元ネタ的に
愛莉は否定
できんはずじゃ
その
機械の体は
そういう
下衆によって
もたらされたの
じゃから


昔の愛莉は
素直な
良い子じゃった…
加えて
甘えん坊で
よくワシに…
ゴホン
素直で
良い子で…
そのあたりは
カットで
カガク技術を
活用すれば
世界はもっと平和に
包まれると信じておった
そして
そこを利用
されたのじゃ
久世愛莉ちゃんだね？


はじめまして
君と同じことを考えている者だよ
ぱく
いいことをしました
あの作品をどう活用するのかは教えてくれませんでしたが…
これで多くの人が幸せに…
ガッ


なんということをしたのじゃ
あれを悪用されたら…
多くの人々が不幸に…
!?


だましたんですね
その作品を返して下さい！
く…
ど…どうする!?
ガキとはいえカガク者…
逆にこいつで…
せっかく手にいれたカガク技術をみすみす返すかよ


ろくに理解せんと
扱いおったせいで
カガク装置は暴走
愛莉は
一命を
とりとめたが…
愛莉!?
事実です
ったく 人の
プライベートを
べちゃくちゃと
駒場遥希も
あのときの響と
同じかもしれんのじゃ
近付くべきではない


なぜ愛莉が
入れ込むのかは
分からんが…
——分からない？
万能
BP
バックパック


ドォッ
ぢにゃ!?
Dr.ワタリー
あなたは私と
遥希さんのことを
何も知りません
そんなあなたに
私の愛を邪魔する
権利はありませんね


あの日…
なんということじゃ…ッ
緋月家に頼んでみよう
彼らなら愛莉の体を再生できる…
……
カガクで世界を平和に
とんだ幻想でした
世界に溢れているのは
きっと…
ような


源次郎おじいさま…いえ…Dr.ワタリー
私を…機械の身体に
機械の身体…
特異の身体…
それは他者を信じた戒めと
決別の証



ですが…
愛莉───!
……
また
あなたですか
駒場さん
そんな顔
すんなよ
今日こそ一緒に
遊ぼーぜ?
……ッ!


ぷいっ
お断りです
今は体内のナノマシンのメンテナンス中
いえ…たとえ暇だったとしても…
綾奈…さん…



――くそぉっ
なぜ私の心は こんなにも かき乱されるのです
私はひとりで いいと…
誓ったはずなのに…


!?
バキ
バキ
バキ


う…
…
ここは―裏山の枯れ井戸ですか
どうやらかなり長い間気を失って…
!?



あぁあぁあッ!?
ナ…ナノマシンが
誤作動して体を侵食…
いけません…
早く
再調整を…
!!
こ…これでは
再調整どころか
ここからの脱出も…


こんな暗い
井戸の底で…
私は…
このまま…
ひとりで…!?
ようやく…
理解した…


駒場さんの誘いに心が躍るのは…
綾奈さんが私以外のひとに頼っているのに喪失感を覚えるのは…
私は…
あ…
あ…
私の…
本心は…


ひとりは…
いやです…
誰か…
だれか…


おうっ
呼んだか？


愛莉が家に帰ってねーっていうから俺も気になってよ
あ
体は家までもちそう?
傷だらけになりながらこんな夜遅くまで
私の…ことを…
私は…誰かを信じるのが…怖い…
駒場さん…
いえ…
…遥希さん
でも…
ありがとうございます
このひとなら……


Dr.ワタリー
過去の一件から心配する気持ちは分かります
ですが遥希さんは私が認めた
心より信頼できるひとなのです
ですので今日こそ私を選んで下さい！
ぐいん
うっわ そっから そっちの話いく!?
だ…だから俺的にはみんなで…
私の気持ちをガッツリ聞いてもそれですか
ええい一体何が不満だと…



なるほど
話は
分かったわい
じゃがその小僧は
本当にそれほどの
信頼をおいてよい
相手なのかのう…？
…どういう
意味です
調べは
ついておる
駒場遥希は…


かつて己の親友を…
死に追いやっておる


vol.34／そしてヤツらは歩いていく
遥希さんが
過去に親友を…
死に…
追いやった…!?


ハルくん…？
な…なんとか
言いなさいよ…
調べはついているんですね？
愛莉(アイリ)!?
前から気にはなっていたのです


遥希さんが言う「みんなで仲良く」はただの優柔不断の言いわけではない
恐らく…過去になにかある…と
勝手を許して下さい遥希さん
これはきっと…私たちが前に進むために必要なこと…！


覚悟は
よいようじゃな
話は…そう
駒場遥希がこの地へ
転校してくる前…
駒場遥希には
親友がおった
名はニクラス
親の都合で
留学してきて
間もない
外国の少年じゃ


まだ日本語も
おぼつかん程
じゃったが…
駒場遥希は
気にせず受け入れ
良い関係を築いた
じゃが…
学校ではそうは
いかんかった…


何言ってっか
わかんねーし！
つーか！
顔からして
なんかキメーし！
異端への…
迫害…！
それは子供が行うとは
思えないほど
陰湿なものだった
らしいのう
ハルくんは…!?
ハルくんなら…
…最初は小僧も
ニクラス少年を
庇っておったようじゃ


じゃが…
矛先が自分にも向きはじめ…
——そうさ…


もう…
寄んじゃ…
ねぇよ…ッ！
俺は
あいつを…
見放したんだ…！
——そして…


その…
翌日……




分かったじゃろう
この小僧は
我が身可愛さに
親友さえも見捨て
そして死に
追いやる
利己的な…
そうだよ…
ニコラスが
死んだのは
俺のせいだ…
俺が見放しさえ
しなければ…


…そのときの俺は相当ひどい状態だったらしい…
見かねた両親によって転校を決意
だが…


そこでも
行われていた
異端への
迫害




俺は
誰かを選ぶのが
怖い


だってそれは…
もう…
誰も…
他の誰かを
切り捨てることに
なるから…
見放したく…
ない…



──成程
自分が
選ばなかった者
それらが
辿るかもしれない
その先の結末を
未だに恐れている…と
遥希さん


選ばれなかったら
少し…悲しいかもしれません


ですが遥希さんは私たちを救ってくれました
暖かい思い出を築いてくれました
そのかけがえのない事実が私たちを包んでいます
決して折れることはありません


愛莉…
みんな…
起こった事実ばかりを注視し心の部分まで考えがいきつかんかったわい
疑って悪かった小僧
これからも愛莉によくしてやってくれ



ふんっ！だから言ったでしょう！
行きましょう遥希さん！
遥希さん
今度は私たちが遥希さんを助ける番です


過去の傷が
遥希さんを
苦しめるのなら
その傷を
私たちが
癒してみせます
かつて私たちに
して頂いたように


ですから…
そのときは
私を…
──いえ…


私たちの想いに
向きあってくださいね…!
そーゆートラウマ対策なら透子サン印のこのお薬〜♪
にははっ
うわぁいるし!
っていうか色々台無しだからそれ!
まぁカガク者的にはアリな治し方な気もします
「カガクなヤツら」第⑥巻／完・完結


Illust Gallery


Illust Gallery


the OMAKE comic
カガクなヤツら
ヤアー!!
スリーサイズ大暴露大会——ッ!
じゃんじゃん調べていきやがりますよ——
また危なそうなブツを
最後だからってはっちゃけるね——
締履小百合：身長165 3サイズB80 W60 H80 カップB
弱点 他人の体液 感度は人並み以下
フ…あなたほどの存在が…情けないですわね
おまえは…
はっちゃけるつもりなら…
スリーサイズだけでなく感度☆や弱点♡も大暴露すべきですわ
妙な方向に悪化したァ——!
ほほう! オヌシもワルでやがりますね!


打ちあげ用のケーキできたわよ
ああっ このタイミングで
自信作♥
ひやあっ!?
お…何!?
耳長め… また妙なことを…
んぃ?
三鼎 結唯
Height:158
3size:B78 W55 H83
CUP:C
弱点:好みの人に頭ナデナデ
弱点感度:好感度によって人並み～数倍
三鼎 彩刃
Height 167
3size B95 W60 H98
CUP:H
弱点:言いワケできる状況
弱点感度:相手によって数倍
三鼎 紬
Height:147
3size:B88 W57 H90
CUP:F
弱点:陥没TKB
弱点感度:18倍



久世 愛莉
Height:145
3size:B70 W52 H77
CUP:A
弱点:クチ なんか書けないトコ
弱点感度:9倍 8倍
にははー まぁ知られて困るような体はしてないけど？
緋月 透子
Height:176
3size:B97 W61 H92
CUP:I
弱点:尻
弱点感度:20倍
そういう問題じゃありません！
つーか感度の高さ何倍とか言われてもピンとこねーというか
誰のナニが基準なのさ
笠間 恵
Height:158
3size:86 62 82
CUP:D
弱点:耳のウラ
弱点感度:人並み
わ
無視
さぁラストは一番気になる…



緋月綾奈でやがりますよー！
緋月 綾奈
Height:160
3size:B108 W59 H99
CUP:M
お…ねがい…っきょう…は…♡
うわ やっぱ スゲエ
弱点:全身(特に胸とTKB)
ふぃ あぁっ あぁ♡
っていうか なんで フツーに やられてんだ
…感度はどうしたんですの？
ピピピピ
待ちやがりなさい 数値が止まらな…
50…100…300…
こ…こんな数値が…!?
ス○ウターの故障でやがりますか!?
ピー
うわらばッ
な…ならば私の最新型…
はうっ!!
日常生活に支障出るレベルの感度のヒトは格が違ったとか


あとがき
というわけで
カガクなヤツらも遂に最終巻。
最後まで読んで頂き、感謝感激です！
KAGAKU KAGAKU
本編以外にも 付録のグッズやドラマCD、そしてアニメOADと、
様々なカタチで展開できたのも、応援して下さった方々…
そう、アナタ様のおかげなのですよ！ 本当にありがとうございます！ 心を込めて、
カガクなヤツらはこれにて最終巻ですが、ヤツらの物語は続いていくものと
末永く愛してやって下されば幸いです!!
では、またお会いしましょう
次の作品もガッツリ
がんばりますぜ！
古川英明
2014.2
自作

Champion RED Comics
チャンピオンRED
コミックス

カガクなヤツら⑥

カガクなヤツら・シリーズ
ISBN978-4-253-93041-3

2014年3月5日　初版発行

著　者　吉川英朗（よしかわひであき）

発行者　秋田貞美

発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座 00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23588-4